

セミナー報告：複合差別の実態と理論

——アフリカ系アメリカ人女性の事例から

元 百合子(大阪女学院大学准教授/IMADR-JC企画運営委員)

標記のセミナーが去る2月15日(金)、東京で行なわれた。IMADR-JCの後援を得て、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター(CAPP)内の「マイノリティの権利研究会」が主催したものである。講師は、米国コロンビア大学およびカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の法科大学院で教鞭をとるキンバレー・クレンショー(Kimberlé W. Crenshaw)教授である。教授は「批判的人種理論」と呼ばれる知的運動の創始者であり、人種とジェンダーに関連する諸問題、とりわけアフリカ系アメリカ人女性に対する差別の「交差」に関して先駆的な問題提起と研究を行ない、社会的な活動にも関わってきた。2001年に国連が南アフリカ、ダーバンで開催した「反人種主義・差別撤廃世界会議」にジェンダーの視点を導入することに貢献した。以下はそのレクチャーの要約である。

1. 人種差別とジェンダー差別の交差

複数の差別の交差を問題にする目的は、そうした問題に対してより包括的なアプローチが必要であることを強調することである。アニタ・ヒル事件⁽¹⁾をはじめ過去にも多くの事例があるが、現在進行中の米国大統領選挙は、交差がいかに目に見えない形で存在するかを示す好例である。初の女性大統領が誕生するか、それとも初の「黒人」大統領が誕生するかという状況下で、「すべての女性はクリントン候補に投票するはずだ」とか、「アフリカ系アメリカ人ならオバマ候補に投票すべき」といった考え方が当然視されている。そ

こではジェンダーは白い顔を持ち、人種は男性の顔をしている。「白人」でも男性でもないアフリカ系アメリカ人女性の存在は、どちらの視野にも入っていない。

構造的差別——包摂と排除

「黒人」男性が「白人」女性に先んじて選挙権を付与された1866年当時、著名なフェミニストであるスーザン・ア

ンソニーはそれに反発して「女性」の参政権を主張したが、彼女の言う「女性」に「黒人」女性は含まれていなかった。アフリカ系アメリカ人男性も味方であったわけではない。「黒人」指導者のブッカー・ワシントンは、「黒人」女性が政治参加することの意義に疑いを表明していた。「女性」は1920年に選挙権を獲得したことになるが、ほとんどの「黒人」女性は除かれていた。

不可視化の交差——相互排除 相互に関係しているにもかかわらず、人種差別とジェンダー差別に対する闘いは分離して組織され、各グループ内で力を持つ人びと(前者は男性、後者は優越的地位にある女性たち)が主導してきた。その結果、どちらの社会運動もすべての当事者を包摂したものにならなかった。しかも現実には、貧困、人種・民族性、ジェンダー、年齢、障がいなどに基づく差別が重なり、交差しているのだから、「交差」概念を用いた分析をしなければ、有色女性が包摂ないし排除によって不可視化されてきたことが明らかにならない。

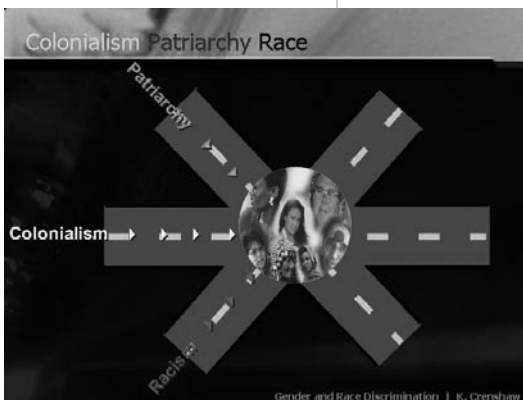
人身売買の例が示すように、「女性の問題」と位置づけられると、有色女性が被害を受けやすい事実が見えなくなる。他方、集団内部で相対的に脆弱なグループが抱える問題は、集団全体の問題とみなされないことが多い。米国がかつて有色女性に不妊措置を強要した問題は、女性団体からは女性の権利問題として扱われず、アフリカ系アメリカ人からも優先課題とみなされなかった。

2. 非効果的対応という結果

「交差」概念による分析の不在は、諸問題に効果的な対応がなされないという結果を招く。たとえば、不法移民対策として米国で「偽装結婚(防止)法」が策定された当時、それを移民問題として受け止めた女性団体は反応しなかった。2年間の結婚期間を在留許可取得の要件とした同法が、ドメスティック・バイオレンスの被害女性にとっては救済を求める障害になることが後になって判明し、被害を証明すれば適用免除することに改正されたが、退去強制をおそれ、孤立し、医療や警察

【図：差別の交差イメージ——対象を定めた排除】

メタファー:道路は、抑圧の軸(家父長制、人種的序列化など)を示す。道路を走る車両(人種、ジェンダー、階級など)は、抑圧のダイナミクスを示す道路の交差部分に在るのは、周縁化された女性である。
図の説明:交差点内にいる女性たちは、車両の種類や速度によって異なる多様な衝突事故(すなわち、あらゆる種類の差別のぶつかり合い)を体験する。



©Kimberlé W. Crenshaw

による救済を求めにくい状況にある移民女性の実情に合わない。

3. 衝突の態様

対象を特定した差別 特定人種の女性のステレオタイプ化、特定民族の女性に対する性的暴力や集団殺害などがこれに当たる。米国社会では今も、レイプの加害者に対する処罰の程度は、何よりも被害女性の肌の色で決まる。有色女性、とりわけ「黒人」女性に対するレイプは、「白人」女性に対するレイプよりも軽い処罰で済む。このことは、「黒人」男性の高い有罪率が注目される一方で陰に隠れてきた。

社会福祉制度も、「黒人」女性は怠惰で労働意欲が乏しく、子どもを産みやすいといった画一的なイメージに基づいて「改革」された。「白人」の母親は専業主婦として家にいることが期待される一方、「黒人」の母親は働くべきだという前提で非難され、貧しく、教育機会に恵まれず、失業した多くの「黒人」女性が不均衡に重い罰を受けたのである。

複合的差別 「黒人」女性が体験するのは、人種とジェンダーに基づく差別が不可分に結合し、複合したことによる不利益であって、そうした女性たちは特別の保護を必要とする。たとえば、「白人」男性を基準にすると、有色男性の平均賃金は73%、「白人」女性は59%、「黒人」女性は57%にすぎない。しかし、企業も司法も両者を分離した論理を採用して、「黒人」女性の訴えを退けてきた。有色男性を雇用していることを理由に人種差別の非難を排し、「白人」女性を採用していることでジェンダー差別の非難を排してきたのである。

女性受刑者の急速な増加における有色女性の比率は突出している。麻薬関連犯罪への関与が主な服役理由だが、多くの場合、夫、兄弟や親密な間柄の男性から頼まれた行為や彼らをかばった結果である。男たちから受ける暴力の結果、そうした犯罪に巻き込まれるケースも少なくないが、主犯よりも重い刑を科せられることさえある。多言語による異文化に配慮したカウンセリングを提供するシェルターは、多くない。女性受刑者の65%が未成年の子どもを持つ母親だが、女性受刑者に対する周囲の見方は男性受刑者に対するより概して厳しいことから、家族が面会に来る頻度も、男性受刑者より低い。

4. まとめ

これらの問題は、女性の権利運動においても人種差別反対運動においても周縁化され、効果的な取り組みがなされてこなかった。したがって、伝統的なアイデンティティ・ポリティックス⁽²⁾に異議を唱え、交差的な抑圧に対して権利の保障を要求する必要がある。そのためには、(1) 差別の交差を見えなくする効果のある分析や政治活動を見直すこと、(2) トップダウンではなくボトムアップで情報収集をすること、つまり草の根レベルの活動家や専門家の力を借りて、交差的差別を受けている女性たちの存在をつかみ、細分化した詳しい情報収集を行なうことが重要である。(3) 国際的なレベルでは、女性差別撤廃委員会と人種差別撤廃委員会が、交差的差別の問題について協議・協力する体制を確立することが必要である。

レクチャーに続いて、アイヌ民族、被差別部落、在日コリアン、移住労働者、性的マイノリティなど、日本社会で周縁化された集団に属する女性とその支援団体のメンバー、研究者など、当日の参加者との経験交流と意見交換が活発に行なわれた。クレンショー教授は、日本のマイノリティ女性たちの状況と自主的な活動に強い興味を示した。とくに、女性差別撤廃委員会にマイノリティ女性の視点を反映したカウンターレポートを出したことは、米国を含めて多くの国の女性運動が見習うべき先進的な活動であると述べた。

同時に、参加者の多くは、交差的・複合的差別の概念が、マイノリティ女性に共通する問題を分析し、解決する上で有用かつ重要であることに確信を深めた。日本では、これまで「複合差別」の概念が十分に精緻化されないまま使われてきたので、複数の差別の交差と複合のダイナミズムとその影響を、実例を示して解明するクレンショー教授のお話は、新鮮で説得力があった。日本のマイノリティ女性の闘いの理論的基盤を強化することに役立つセミナーであったと言える。

ただし、差別は、差別する側が自覚的な自己変革の努力と具体的な措置によって解決すべき責任を負う課題である。その意味で、日本社会でマジョリティの地位にいる女性たちにも聞いて欲しかった、という感想もあったことを付記しておきたい。(もとゆりこ)



セミナーで話すクレンショーさん(左)と筆者

- (1) 1991年に米国最高裁判事候補となったクラレンス・トーマス判事(「黒人」男性)が、かつての部下であるアニタ・ヒル(「黒人」女性)からセクシャル・ハラスメントを告発されたことで、指名承認拒否の危機に直面した事件。ヒルは「黒人」社会から「裏切り者」として強く非難され、多くの「黒人」女性たちは、どちらに付くかの選択を迫られてアイデンティティを切り裂かれる思いをした。クレンショー教授は当時のヒルの代理人の1人である。
- (2) 民族、性別といった属性(アイデンティティ)を理由に抑圧・差別を受ける集団が、その属性を重視して結束し、集団的利益や目標を実現しようとして行なう広義の政治活動。